（公社）兵庫県建築士会　姫路支部　会報

姫路支部だより　3

2023 March No.94

国宝探訪 NO.39 神谷（かんだに）神社本殿　～現存最古の流造本殿～　　鎌倉時代（1219 年）　香川県坂出市

香川県には２棟の国宝建造物があります。そのうちの一宇が神谷神社本殿です。

三間社流造りの本殿は、檜皮葺の屋根・槍鉋仕上げの丸柱・大面取りの向拝の角柱などに鎌倉時代の建築様式がよく表現されており、築造年が明確な流造の神社建築としては、わが国最古といわれています。柱上の組物は舟肘木、向拝は三斗組で、妻飾は豕叉首となっており、また高欄部分の架木（ほとぎ）端は反りが少なく古制を伝えています。簡素で素朴ながらも端整な美しさを見せ、また鎌倉時代の建築技法を今に伝える貴重な神社建築として、地元の人々によって守られ、現在まで存続しています。

今回の取材では、最寄駅からタクシーで現地へ向かいました。その車中で運転手さんから「お宮は去年火災に遭ったそうですよ」と予期していない驚きの話を聞き、「瀬戸内を渡ってはるばるここまで取材に来たけれど今回は記事が書けないかもしれない・・・」っと愕然としながらも現地に向かったのでした。（2.3 ページに続く）

2 月の活動報告

2.14(火)　建築模型作り体験講座（ものづくり体験館）

2.23(木)　構造学習会（オンライン）

3 月の活動予定

3.10(金)　建築模型作り体験講座（ものづくり体験館）

3.23(木)　建築相談（姫路市役所）

構造学習会（オンライン）

活動報告　［第 9 回構造学習会］　2 月 23 日（木）

「はじめての木造耐震等級」（CPD ２単位 / １回）の第９回目を２月２３日（木）にオンライン（ZOOM）にて開催しました。「片持ち梁の計算」という内容で、兵庫確認検査機構の景山先生に事例を使いながら木造での片持ちの特徴に気を付けることなどわかりやすく解説いただきました。

講義途中に講師の設問に対して受講生がチャットで回答するという方法で受講生の出欠と受講生の理解度の確認をしています。受講人数は７名でした。 欠席された方には、講義ビデオをクラウド上にアップし聴講できるようにしています。次回は今年度の最終回で３月２３日（木）に開催予定です。

次年度も引き続き「木構造」について全１０回の講義を予定しています。

（報告：構造学習会幹事　石原 弘一）

クラウドファンディング呼びかけのチラシ

神谷神社提供

「中を観られますか？」と、参道を掃除されていた神社関係者の方から思いがけないお言葉をかけていただきました。おそらく、塀外を行ったり来たりして写真を撮っている私の姿を遠方から気づかれて、みかねてのご厚意だったのでしょう。「ありがたい！」願ってもない取材の機会となりました。

「昨年、落雷に見舞われまして、・・・」と中を案内されながら、当時の様子を生々しく語ってくださいました。

国宝である当神社は、裏山を控えた立地条件のため、創建以来落雷は裏山に落ち、建物に落ちたことはなかったそうです。平地だと当然避雷針を設置するのですが、そのような歴史があったため、落雷するとは思ってもみなかったそうです。雷の大きな音がすると、「あっ、また裏山に落ちたんだ」と思われるそうですが、今回もそのように考えながら本殿のほうを見ると、驚くことに屋根から煙が上がっているのを発見し、急いで消防署へ通報されたそうです。落雷のため、消火栓設備は電気系統がすべて被害を受け作動せず、消火器も高い位置までは届かず、ただひたすら消防隊の到着を待つだけの状態だったそうです。

「自家発電装置を備えた消火設備が必要だった」と、想定外の事態に見舞われたようです。

「これが日中で幸いしました、夜中だと気づかなかったかもしれない」

翌日、文化庁から早速見に来られ、「残存部分が多いので国宝の価値は損失していない」とおっしゃられ、その後早速クラウドファンディングを立ち上げ、幸いにも金額には到達したそうですが、「これからは、避雷針の設置、調査設計、そして修理工事と３年間かかります。」と今のお気持ちを語ってくださいました。

日頃、この避雷針がなければ美観上もっと素晴らしいのに・・・といつも文化財を見ながら感じていた私ですが、今回のお話を聞き、落雷のメカニズムの一端を知り、文化財における消火設備の重要性を新ためて実感した次第です。

この度取材にご協力いただいた神社関係者のお方に心よりお礼申し上げます。

野面積の基壇

反りの少ない高欄

大面取りの向拝柱

焼け跡が今も残る北面妻飾

古制を残す豕叉首

破損していない落雷部分の棟鬼

落雷部分の千木北東先端

保管されている棟飾り

電気系統が被災した消火栓

（写真・文：西嶋 宣久）